

第2回鎌ヶ谷市観光ビジョン策定委員会 会議録

1 日 時 令和5年8月1日(火) 午後1時30分～午後2時45分

2 場 所 鎌ヶ谷市役所地下1階 団体研修室

3 出席者(敬称略)

委員長	秋山 秀一	元東京成徳大学教授
副委員長	酒井 学	(株)ジェイコム千葉 東関東局 局長
委員	池澤 孝信	東武鉄道(株) 新鎌ヶ谷駅長
委員	渋谷 直	新京成電鉄(株) 地域政策担当課長
委員	丸山 剛史	北総鉄道(株) 取締役 企画室長
委員	井手 勝則	鎌ヶ谷市商工会長
委員	甲斐 貴子	一般社団法人鎌ヶ谷マネジメントラボ代表
委員	久米 舞子	市民代表
委員	利重 和彦	市民代表

(欠 席)

委員	荒井 修光	(株)ファイターズスポーツ&エンターテイメント 鎌ヶ谷事業部副部長
委員	川村 誠司	鎌ヶ谷市観光農業組合長

【事務局】

五月女商工振興課長、岡本係長、川村主事

4 傍聴者 0名

5 内 容

(1) 開会

(2) 議題

- ・鎌ヶ谷市観光ビジョン案における修正点について
- ・第4章アクションプランについて
- ・キャッチフレーズについて
- ・その他

議題1 鎌ヶ谷市観光ビジョン案における修正点について

(事務局)

元号表記だった部分について、すべて元号と西暦を併記する形で修正した。

また、グラフ等の出典について、いつ、誰が行った調査かわかるように、修正した。

最後に、「(5) 鎌ヶ谷市の認知度」についても、指摘のとおり誰もが分かりやすいようにと、基本的には「知名度」と修正した。しかし、鎌ヶ谷市が令和3年度に実施したアンケートの名前が「鎌ヶ谷市認知度アンケート」であるため、出典やアンケートの選択肢は「認知度」のままとした。

議題2 第4章アクションプランについて

(事務局)

委員の皆様から事前にいただいた意見を、大きく3つの項目に分け、資料1にまとめた。1つ目が「既存のアクションについての意見」、2つ目が「新規のアクションについての意見」、3つ目が「その他についての意見」である。この後、次の2点を踏まえて、資料1の意見について検討していただきたい。まず1点目が、本ビジョンの計画期間は令和14年度、2032年までとしているため、提案のあった内容が、この計画期間中に実施可能であるかどうか。次に2点目が、アクションの内容に、改めて記載する内容かどうかである。以上2点を踏まえて、ご検討いただきたい。

(委員長)

それでは、「既存のアクションについての意見」について、まずは「梨をコンセプトにしたイベントの実施」について、3人の委員から意見が出ているが、補足の説明などはあるか。

(各委員)

補足説明なし。

(委員長)

渋谷委員からの意見で、鎌ヶ谷でしか体験できない他市と差別化したイベントとはどんなイメージをしているのか、とあるが事務局では、どのようにお考えか。

(事務局)

梨に特化したお祭りを近隣市で先行して実施することが重要と考えており、実施する際は、梨そのもの以外にも、商業者を交えて鎌ヶ谷市が梨のまちとして、スイーツや、それこそ梨ワイン、子どもには梨サイダーなど、梨にちなんだものが楽しめるお祭りを考えている。詳細は現時点では決まっていないが、市だけで決めるのではなく、市民や事業者の意見も伺いながら、実施に向け、検討していきたい。

(委員長)

ただいま事務局から説明があった内容について、何か意見・質問等はあるか。今日の流れはこのような感じで、出された意見について、順番に協議していく。出された意見はなるべく行政の方でも受け入れて、新たな観光ビジョンを作ってほしい。意見の中でもできるもの、できないもの、色々な意見がある中、どの辺で落としていくか、ということを考えていただくことになる。

皆様の意見をみると、実際にアクションを実施する時に踏まえていただきたい内容で、とても良い意見だが、現段階で、あまり細かくは計画にも入れられないと思うので、ひとまず、この「アクション1 梨をコンセプトにしたイベントの実施」は、このまま掲載するということよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

次に「アクション2、市内を巡る仕掛けづくり」について、4人から意見が出ているが、補足の説明などはあるか。

(各委員)

補足説明なし。

(委員長)

こちらも、あまり細かい内容は実施する際に考えることなので、ひとまずこの「アクション2、市内を巡る仕掛けづくり」は、このまま掲載するということでよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション4 公園の環境整備」について、意見が出ているが、補足の説明などはあるか。

(丸山委員)

補足説明なし。

(委員長)

以前、キッチンカーも、実際に北総鉄道の高架下の広場でやっていた。なかなか持続することは難しかったようだが、今後も色々なイベントを開催できれば良いと思う。「アクション4 公園の環境整備」は、このまま掲載することよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション10 かまがやの花火」について、質問が出ているが、事務局いかがか。

(事務局)

「アクション10 かまがやの花火」について、「今年は中止と発表されたが、来年度以降、開催する見込みはあるのか」という質問だが、担当課に確認したところ、来年度以降は未定となっており、現在協議中との回答をいただいている。

(委員長)

未定ということだが、「アクション10 かまがやの花火」は、削除はせず、この

まま掲載するということによろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション11 スリランカフェスティバル」について、質問が出ているが、事務局いかがか。

(事務局)

「10年後まで鎌ヶ谷市で開催されるのか」という質問だが、相手があることで、はっきりとやるとは言い切れないが、多文化共生や国際交流の推進に繋がるイベントのため、本市としても、開催していただけるよう協議してまいりたい。

(委員長)

続けて欲しいと思うが、相手が変わると対応も変わる場合がある。それでも、状況さえ許せば前向きに続けていきたいという事務局の話であった。それでは、「アクション11 スリランカフェスティバル」は、このまま掲載することによろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて、「アクション15 事業者と連携した情報発信」について、意見が出ているが、補足説明はあるか。

(丸山委員)

補足説明なし。

(委員長)

企業が各々の情報を相互に発信する仕組みづくりとあるが、事務局はどのようにお考えか。

(事務局)

事業者間の情報発信における仕組みづくりについて、市ができることとしては、ひとつには連携協定という方法がある。令和4年に株式会社ジェイコムと鎌ヶ谷市商工会、鎌ヶ谷市の3者で、相互に連携して情報発信をする仕組みとして、情報発信連携協定というものを締結した。例えば、こういったことを鉄道3社と鎌ヶ谷市で締結すれば、連携して情報発信が行えたり、あとは、これも例だが、こういった集まりをきっかけに、横のつながりを構築していくなど、そういったことが考えられると思う。

(委員長)

事務局より説明があった内容について何か意見はあるか。

なければ、「アクション15 事業者と連携した情報発信」についても、このまま掲載するということよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション19 かまたんを活用した取組」について意見が出ているが、補足説明はあるか。

(酒井委員)

特にはないが、具体的にこういうことも考えたら良いという例として挙げた。この19の項目自体はこのままで良いと、私個人としては思っている。

(委員長)

おっしゃる通り、実施する時に、前向きにやっていくことが大切である。ただいま説明があったが、恐らく皆さんも酒井委員と同じように、アクションの内容に載せるまではいかないが、実施する際に踏まえるべきこととして、出した意見もあると思う。

それでは、「アクション19 かまたんを活用した取組」はこのまま掲載するということよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション20 新たな鎌ヶ谷グルメの推進」について、意見が出ているが、補足説明はあるか。

(各委員)

補足説明なし。

(委員長)

それでは、このまま掲載するということよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

続いて「アクション2 1 鎌ヶ谷市ふるさと製品の活用」について意見が出ているが、補足説明はあるか。

(丸山委員)
補足説明なし。

(委員長)
それでは、このまま掲載するということでよろしいか。

(各委員)
異議なし。

(委員長)
続いて「アクション2 7 職場見学（体験）」について、補足説明はあるか。

(各委員)
補足説明なし。

(委員長)
それでは、このまま掲載するということでよろしいか。

(各委員)
異議なし。

(委員長)
それでは次に、「新規アクションについての意見」だが、利重委員、酒井委員から色々な意見が出ているので、まずは利重委員から説明をお願いしてよろしいか。

(利重委員)
観光ビジョンなので、骨子が書かれていれば、詳細までは書く必要はないと思っているが、具体的アクションというところで基本方針の施策があったので、その裏には、こんなことできたら面白いのではないかというところを記載させていただいた。

まず、「施策1-1 新たな参加型イベントの構築」では、従来は、リアルでお祭りなどで人を集めるということをやっていたが、今、日本がデジタル田園都市国家構想ということで、どこにいても快適に過ごせるということを狙っている。そんな中で、もうすでに多くの自治体が、メタバース上での交流というのをやっている。この目的は関係人口の創出で、近くの人たちだけが集まるのではなく、鎌ヶ谷にゆかりのある方、例えば、鎌ヶ谷市出身だけでも、今は違うところに住んでいる人、夏にコロナで帰省できなかった人など、そういう人たちが鎌ヶ谷に触れるということで、仮想空間を使ったイベントということをやってみてはどうか、という意見である。

次に「施策1-2 観光基盤の整備・充実」では、色々な政策を今後のビジョンの

中で実施していかなければならないが、やはり財源をどう確保していくかも大きな問題になると思う。これも具体的なアクションに書かなくても良いと思うが、その具体的な事例として官公庁の交付金の事業の公募に応じる、であるとか、あとは企業版ふるさと納税という制度が、非常に自治体の単年度の歳出予算確保に適しているものがあるので、そういうものを活用していくのが良いと思っている。

続いて「施策2-2 市民が鎌ヶ谷市を好きになる体制の推進」では、今日ここにいるメンバーは、割と市役所に近いメンバーもいるが、市民の中には市役所に、ここ何年も来たことがない、という人もたくさんいると思う。そういう人たちに、まず市の取組に興味を持ってもらうということで、最近流行りのChatGPTの活用である。これは、大きく言うと、自治体を使う場合、2つのパターンがあり、1つは中で働く人たちの資料作成、例えば、議会答弁であるとか、それこそこういう観光ビジョンを作るときに文言を打ち込めば、AIが文書を作ってくれるという非常に便利なものである。もう1つが住民向けで、住民が普段、聞きたいことを全てChatGPTで答えるというものである。もう数十年前から、ホームページ上には情報が載っているものの、扱いに慣れない高齢者からすると、情報が見つけれないというのが、課題になっている。ところが、ChatGPTでは、例えば、スマホアプリのLINEで、鎌ヶ谷市を友達登録さえすれば、そこで、高齢者が聞きたいことを話すことで、機械が自然に回答してくれるので、市へ聞きたいことが、365日24時間、いつでも聞き出せ、市民にとっては、市が近くなるのではと考えている。

続いて「施策3-1 情報インフラの拡充・強化」では、鎌ヶ谷市をどう知ってもらうか、知名度を上げていくか、というところで、いろんな手法はあるが、観光で言えば、日本で最大級のイベントがツーリズムEXPOジャパンというものが、年に1回やっており、これは県単位から小さい村までの自治体も出展している。そのようなイベントに出展して、鎌ヶ谷の知名度を上げるという手法を使ったり、あとは、色々なところに地方創生のPRブースがあるため、そういうところを活用して、鎌ヶ谷市の知名度を上げていく、というやり方もあると思う。

そして最後、「施策3-2 職員に対する情報発信の意識化」では、ほかの自治体でもうすでにスタートしているものとして、AIポスターがある。例えば、街中や市役所の中、道の駅、公民館等々に掲載して、そのポスターを見た人がスマホを当てるとポスターが話し出す。それを観光にいっぱい使っているところもある。しかも、言葉を英語、中国語、例えば、スリランカの言葉とかも書いて貼ってあると、外国人の方も楽しめる。例えば、鎌ヶ谷大仏にスマホを向けると、その国の言葉で説明してくれる、というものもある。そういうことをやることにより、職員のみならず、市民も鎌ヶ谷市、大分変わってきたなという意識の相乗ができると考えている。

(委員長)

酒井委員の意見もデジタルが関係しているので、ご説明いただきたい。

(酒井委員)

今、利重委員がおっしゃったところと重なり、やっぱりARとか、総称してXRの技術を使って、例えば、観光スポットに訪れた人がスマホとか、そういったもので、

CGで見られるという、この28のアクションのアクション22にも、AR・VRを使った技術のことが記載されており、あとは、アクション2のスタンプラリーのところにも全部関係してくるところになると思うので、これはこれからのトレンドとして、ぜひ採用された方が良くないかと思い、記載させていただいた。

もう1つは、前回の委員会で申し上げたが、この28のアクションの中に外国人向けにどうPRしていくかというインバウンド施策の項目がなかったので、記載させていただいた。

(利重委員)

説明が抜けていた部分があり、補足で説明させていただきたい。「施策3-3 鎌ケ谷市マスコットキャラクターかまたんの活用」では、かまたんの活用については皆さんで色々な意見を出し合っていければ良いと思うが、1つ新しいところで、NFTの活用がある。もうすでにいくつかの自治体でスタートしているが、かまたんのNFTを発行することにより、全く鎌ケ谷という名前を知らない全国のデジタル層にPRできる。これの良いところは鎌ケ谷の知名度を上げることと、さらにかまたんでデジタル住民票的なものを作れば、関係人口が増え、何しろ販売したものが市の歳入にもなり、しかも原価が全くかからずできるため、新しい取組として、かまたんと鎌ケ谷市のPRにも効果的だと思う。

次に「施策4-1 鎌ケ谷市特産品の推進」では、一例として、ふるさと納税で産品を増やしていくという手法がある中で、自販機を置くという方法がある。現在、ふるさと納税の自販機も全国で100以上の自治体が導入している。そういうものを人の集まるところで、例えば、駅とかに置くことも1つの手かなと思う。

(委員長)

お二人の委員の意見について、皆さん、何か意見はあるか。

(各委員)

特に意見なし。

(委員長)

新しい言葉で、これは何だろうというものもあれば、わかりやすいものもある。それでは、こちらについては、新規アクションに入れるか、既存のアクションに溶け込ませるか、また、良いな、と思っても、この計画期間中に実施できるのか、という問題もあるかと思うので、利重委員と酒井委員の説明、それと皆さんの反応、それを踏まえて、事務局に案を作ってもらおうということによろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

では、次に「その他についての意見」だが、こちらは、直接、アクションに関わる

ものと、全体に関するご意見がある。

まず、池澤委員から、鎌ケ谷は地盤に強い点、鉄道3社が交差しており利便性が良い点、これらは鎌ケ谷のセールスポイントになるという意見。そして、甲斐委員の市民団体として積極的に協力していきたいという姿勢、これらは観光ビジョンを実現していく上では当然必要なことである。

こういった意見を踏まえて、観光ビジョンを推進していく際に、皆さんで連携していくということで、池澤委員、甲斐委員に、意見をいただきたいと思う。

(池澤委員)

私は、鎌ケ谷で勤務するのは初めてで、乗務経験はあったが、こういう街というのは初めて知った。この災害に強いというのは、強みである一方、今まで外部にあまりPRされてないのかなど。観光も大事だが、その先にある定住に目を向けることも手ではないかということ書かせていただいた。

(甲斐委員)

市民活動をやっている人たちの視点からいくと、やっぱり既存の活動団体は、鎌ケ谷にずっと住んでいて、歴史も知っているだろうから、その方たちにも協力してもらい、なおかつ、市民からの情報発信というところで、コンシェルジュや特派員では、新規の方たちも参入してもらい、市民で盛り上げていきたいという気持ちは、前回と変わっていないので書かせていただいた。

(委員長)

池澤委員から出た意見に関連して、こういう本がある。「鎌ケ谷まち歩きを楽しむ」、これはCityかまがやというタウン誌で30年以上連載をしていた内容のキーになるところを1冊にまとめたものである。少し紹介すると、『東日本大震災で鎌ケ谷市の震度は5弱だったと。5強から6弱だった周辺の市に比べ揺れが小さかったことで最近、揺れにくいまち鎌ケ谷として注目されることもあるが、これも地盤が強固な北総台地に位置することに関係していると思う。北総台地の上流部に鎌ケ谷に降った雨は、手賀沼、印旛沼そして江戸川流域方面の3方向に流れる。』つまり分水嶺である。こんな低いところで富士山ではないのに、こういうところにある。初めて鎌ケ谷にやってくるという人には、鎌ケ谷市役所の地盤高は約30メートルで北総台地の頂に位置する市役所の屋上階の展望は必見だと。東に筑波山が見え、西に富士山と東京スカイツリー。11月と2月にはダイヤモンド富士も、屋上から見える。鎌ケ谷市の場合、5時以降にも登れる仕掛けを作り、メディアにも取り上げられていた。鎌ケ谷には、意外と知らないこんなものがあるということ、まず職員、そして、市民にも知ってもらおう。市役所の屋上でも、上がれない市役所もたくさんあるが、鎌ケ谷市は5時を過ぎても、ダイヤモンド富士が見えるときは、延長して開放している。そういう意味では、非常に前向きなところもある。今回のこの委員会で、皆さんから出た意見、全部できるわけではないが、良いなというものあれば、どんどん組み入れてもらい、鎌ケ谷の行政には柔軟性がある、と思っていただければ良い。

次に、久米委員から意見が出ている。

これらの意見をみると協議するべきものもいくつかあるように思える。まず初めのアンケートのやり方や市の対応、これらも大切なことなので、市はこういう意見があったことを踏まえて、アクションを実行してほしい。

一方で8番以降の意見は協議する必要がある。まずは「Be-Kamagaya」これがわかりづらいという意見だが、皆さんいかがか。

(事務局)

「Be-Kamagaya」をつけた趣旨としては、平成25年から観光ビジョンを推進している中で、新たな観光ビジョンを作成するにあたり、鎌ヶ谷らしさのさらなる追求、というような意味合いでつけたものである。事務局としては、できれば、これは継続したいと思っているが、皆さんから意見をいただければと思う。

(委員長)

県や国の方で、こういうのを使いなさいといった指示が出ている訳ではなく、流れの中で考えたときに、ぜひ使いたいと思ってつけたものと。そうすると、これがどういものかっていうのが誰にでもわかりやすく、全体の中で使われるようであれば、良いのかもしれない。キャッチフレーズは使っているうちに馴染んでくることがある。ここはそのまま掲載するということでよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

次にフォント、文字の大きさについてだが、これはこれからデザインとともに修正していく、ということで事務局よろしいか。

(事務局)

案が固まり次第、文字のフォントや大きさ、全体的な色遣いなどは修正していく。

(委員長)

次に、アクションに優先度をつけたほうが良いとのことだが、これを順番に並べてこれが最初とは付けられないと思う。どれも並列にして、できることをとにかくやることが重要であると思うがいかがか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

次に、鎌ヶ谷のお土産としておしゃれなものが欲しいとの意見があるがいかがか。
この件は、「アクション20 新たな鎌ヶ谷グルメの推進」に関連していると思うので、ここに溶け込ませる形でいかがか。

(各委員)
異議なし。

(委員長)

次に、井手委員から、これは先ほどの久米委員の意見とも類似するところだが、アクションを誰がどうやって、どの資金で、いつまでにやるのか、そういうものを明記したほうが良い、とご意見があるがいかがか。

(井手委員)

良いアクションを掲載したところで、誰がどうやっていくのかを明記しないと、他人任せになってしまう。作って終わりにならないようにしなければならない。8月12日、13日にエスコンフィールドに行ってきた。そこでは沖縄県名護市のタイトル試合をやっており、名護市長や観光協会、商工会も来ていた。だから鎌ヶ谷を売るのであれば、何のためなのか、例えば、知名度を上げるだけでは、仕方がないので、商売を繁盛させるとか、その辺を踏まえたうえで、観光協会を設置するとか、計画的にやっていく必要があると考える。また、エスコンフィールドには、バスで見学ツアーがどんどん来るらしい。例えば、ブルペンを見せたり監督室を見せたり、そういう仕掛けづくりを、北広島市が商工会と日ハムと一緒にやってやっている。そういったところを鎌ヶ谷市も連携しながら将来を楽しみにやっていきたいと思う。

(委員長)

観光協会というのは、行政が主体でやっているところもあれば、例えば、ホテルなどが持っている場合もある。もちろん商工会が中心なところもあり、本当にバラバラである。だから、鎌ヶ谷で、もし、そういう方向になったらどこがやるのか。やっぱりできる人ができることをできる時にやっていくことが重要である。そして、やっぱり動くことが大事で、行政にも、もちろん協力はしてもらわなければいけない。ただ、行政も全部できるわけじゃない。そこをみんなで理解する必要がある。

勝負はこれを作った後、どれだけ実現できたか。ここに書いたもの以外にもやったものがあれば、それは良いことである。そういう意味では、委員の皆さんは、監視係ということで、これから協力していただきたい。

今、井手委員から出た意見も、文章の中に反映できれば、追記する方向で、事務局にお願いしたい。

それではここまでで何か意見等はあるか。

(丸山委員)

色々と皆さんのご意見を伺って、当社も鉄道事業者で、駅とか車両といったものを持っているので、アクションプランの中で協力できる場所があれば、積極的にやっていきたいと思っている。

また、情報発信でSNSの活用といったところは、当社も従前に比べて力を入れており、肝心の発信内容をこれまで以上に広く募ったり、あるいは提案した意見とし

て、相互に情報発信ができるような体制、そういったものができれば、この鎌ヶ谷市エリアだけではなく、沿線地域とも連携しながら、もっと情報発信に積極的に関与していける余地があると思っている。

(渋谷委員)

当社の方でも集客するためのイベントをやっており、前はハイキングとフルーツラインの紹介をしたが、その他にも車両基地見学会。これは長く続いており、やっぱり長く続くとそれだけ、社員もそうだが、住民の方もここにこれがあるというものになっていき、集客も増すし、参加される方も盛り上げようという形になっていく。なので、今回このアクションに出たものは、なるべく継続していただければと思う。

それと、私は地域政策担当ということで、各沿線の行政との会議や、観光の部署の方と色々お話しする機会があるが、近隣の市も、自分のところだけでなく、隣の松戸市とか船橋市とかと一緒に組んで、人を呼びたいということも、話は聞いているので、地域連携も考えても良いのかなと思う。

(池澤委員)

具体的な話になるが、もし、ここにもあるようにポスターなどを掲載したいというような要望があれば、私の力の及ぶところであれば、掲載料に関しては無料で、張り出させていただく。

(酒井委員)

これを策定して終わりではなくて、これがいくつ実現できるかというところで、私も今回このアクションについての意見を書かせていただいた。他人ごとのように思って書いたつもりは一切なく、具体的に実現するために、我々としてできること、いわゆるソリューションとしてできるデジタル技術を活用したようなところとか、当社として、かなり力を入れる方針なので、これをいかに具現化していくかというところで、今後も、協力していきたい。

(利重委員)

自治体を作るビジョンなので、あくまでもKPIは観光入込客数とか、そういう部分になり、中々金額の部分は入れにくいと思う。ただ逆を言うと、観光入込客数を増やすことは、そう難しいことではないので、実際に、それを鎌ヶ谷市がやっているなということ、市民の方々にどう見られるかが大事だと思っている。

近隣の自治体の事例を1つ紹介すると、先ほどの既存アクションで、スリランカフェスティバルがあったが、隣の市では、これをもうフェスティバルじゃなくて住民向けに、例えば、ごみの捨て方、買い物の仕方、それから大事なのが災害時の対応の仕方、その日本語、英語対応はしているが、スリランカの言葉は独特で、まだ実際に住んでいる方々に伝わっていないということで、そういうことを伝えることが大事だという観点で進めている自治体が、隣にあるということだけ、お伝えさせていただく。

(久米委員)

私の意見は、小さな意見しか言えてなかったのですが、一般の市民だからこそ気づく部分もあると思うので、市民代表、主婦代表としてこれからも頑張りたい。

(甲斐委員)

この計画ができあがってから、どう動いていくかだと思うが、この前段階のワークショップに参加した時に、他の市民も自分事として意見を出して、もっと鎌ケ谷を面白くしようと、そういう鎌ケ谷愛がある人たちがいるので、そこにどう火をつけていくかということが重要だと思う。それで、私から意見を出したのが、文化財。渋谷総司という人が鎌ケ谷にいて、写真もないし、どういう人ということも分からないが、すごく若くして亡くなった英雄みたいな感じで残っている。それをバーチャルで格好良い武将仕立てにすると、割とそういうのが好きな人たちからも、見てもらえるかなと思う。オタク要素を掘り出せる鎌ケ谷市だと思っていたので、そのような感じでこの観光ビジョンができれば、市民の人と一緒に盛り上げていければと思う。

(井手委員)

鎌ケ谷に住んで、こんな夢があるというところがないと楽しくない。例えば、鉄道会社が3社あって、市制記念公園にD51とプロペラ機がある。鉄道会社の本社が2社もある街は中々無いと思う。東武鉄道には8000系とあって、その昭和の我々を支えてくれた電車がもうそろそろなくなって、新京成には800系とあってもうなくなってしまったが、これも昭和のもの。北総鉄道には7000系というものがあって、そうした車両を1両ずつ寄付してもらって、例えば、鎌ケ谷の目立つところに展示するとか、そういう夢があると良い。先日、北海道の三笠市がやっている三笠鉄道記念館に行ってきたが、そこで展示している列車が貴重なものばかりで、キハ57とか色々なものがあつた。鉄道会社がこれだけあるならば、そういった子供たちに夢を与えるような、全国から人が集まる要因を作る。ただ、鉄道会社だけではできないため、市役所がどういう夢を持つか。もっと楽しさを出して、鎌スタのみならず、梨のみならず、そういった観光資源になるようなものを、夢を持ってやれたらと思う。

それともう1つ最後に「Be-Kamagaya」について、私もちょっと分からないのだが。

(委員長)

「Be-Kamagaya」は、私も実は分かりづらいと思う。でも、駄目ということもない。

また、鉄道の話だと、雑誌でも鉄道特集となると倍売れる。京成線だってすごい。確か在来線において、トンネルに入る前あたりのスピードは、日本で一番速い。陸上競技場の近くに電車の見晴らし台がある。そんな知られていないものをもう一度探してみるのも1つの手である。それも鉄道会社の目、行政の目、あるいは女性たちの目、そして子供たちもその中にいると夢がある。よく言われるのは、鎌ケ谷って何もない。ところが何にもないというのは、とても大事なことだと思っている。つまり、一度イメージができると、払拭するのはすごく大変。しかし何もない場合は、これから色をつけていける。そういう意味では、ポテンシャルは非常に高い。

今日、協議した内容を踏まえて、事務局には再度、計画案の検討をお願いする。

議題3 キャッチフレーズについて

(事務局)

新たな観光ビジョンが完成した際は、市民や事業者に読んでもらう必要がある。そのために、親しみやすい、何だろうと興味を持ってもらうための、新たな観光ビジョンの「顔」となるキャッチフレーズについて、皆様に協議していただきたい。

協議にあたっては、委員会に先立ち、庁内でキャッチフレーズを募集したところ、いくつかの提案があり、そこから事務局で9案に絞った。皆様には、次回の委員会までに、この中から1案選んで頂き、別添のキャッチフレーズ一覧シートの提出にご協力いただきたい。また、併せて新規のキャッチフレーズを考えていただいても構わない。提出は8月10日(木)までとさせていただきます。

(委員長)

キャッチコピーは難しい。ありきたりなものは駄目。大切なのは一度見て、そこで止まるかどうか。例えば、「鎌ヶ谷って何」。「どこ」じゃなくて「何」というのがポイントで、つまり鎌ヶ谷が街ということも知らない人がいっぱいいる。皆さんもそういう発想で色々考えてほしい。

議題4 その他について

特になし。

(3) 第3回鎌ヶ谷市観光ビジョン策定委員会について

(事務局)

第3回目の委員会は9月5日火曜日、時間は午後1時半からとさせていただきます。

(委員長)

これで本日の議事をすべて終了することができたが、この後の作業については本日の会議の結果を踏まえ事務局で対応するというところでよろしいか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

異議なしということで、本日の議事録については事務局で作成をお願いする。それではこれをもって、第2回鎌ヶ谷市観光ビジョン策定委員会を閉会する。

(4) 閉会

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和5年8月15日

氏名 秋山 秀一 _____

氏名 池澤 孝信 _____